



東京金融取引所
平成30年度 業務計画

2018. 4. 26

1. 市場環境と取引見通し

(1) 為替証拠金

米国の保護主義や地政学リスクによる一時的な円高も考えられるが、基調としては、世界経済の好調や米欧金融政策の正常化に伴う内外金利差の拡大による円安進行が予想される。

「くりっく365」の取引数量は、昨年度は米ドル/円の変動幅が小さかったこと等から低調であったが、本年度は直近3カ年の平均取引数量を踏まえ、昨年度予算と同程度を見込む。

(2) 株価指数証拠金

内外経済の好調が予想されるが、米国金利の上昇等景気の先行きを疑問視する見方もある。

「くりっく株365」は、昨年後半以降、スプレッド拡大、現物市場との価格乖離等が生じ、足元の取引数量は減少している。

平成30年度の取引数量は、現状に鑑み、低調な見込みとする。

(3) 金利

米欧の金融政策が正常化に向かう一方、日銀は超金融緩和政策の維持を言明しており、国内短期金利は、極めて低位で推移すると予想される。

金利先物等取引数量は、引き続き低い水準を見込む。

2. 基本方針

(1) 証拠金取引

「くりっく365」については、広く海外投資家（台湾・香港）の獲得に努めるなどプロモーションを推進し、取引数量の確保に努める。

「くりっく株365」については、マーケットメイカーによる流動性の確保等により取引数量の回復を図る。

(2) 金利先物等取引

海外投資家の取引推進を図り、可能な限りの取引確保に努める。

(3) システム

コスト削減と利便性向上を実現する次世代金利・証拠金システムの開発を着実に推進する。

また、フィンテック活用のためのIT基盤の整備・検討。

3. 具体策

(1) 証拠金取引

- ① 海外投資家の獲得（台湾・香港）等、プロモーションの拡充
- ② 「くりっく株365」のマーケットメイカー拡充及び商品性変更の検討
- ③ 金・原油ETFを原資産とする新商品の上場準備
- ④ OTC FXのクリアリングビジネスへの参入検討

(2) 金利先物等取引

パック・バンドル取引等を活用した海外投資家の取引推進

(3) システム

- ① 次世代金利・証拠金システム開発の着実な推進
- ② ビッグデータ活用のための基盤整備とAI等の活用検討